

次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会で頂いた御意見の概要

1 会の名称

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第20回総合企画専門委員会

2 県側出席者

復興局 他各部局

3 開催日時

平成29年11月15日（水）14:00～16:00

4 主な御意見の概要

- 検討体制等について
 - ・ 次期総合計画の策定に当たっては、当委員会の意見も反映できる仕組みとして欲しい。
 - ・ 次期総合計画の策定過程に、大学生、高校生が参画する仕組みを作っていただきたい。
 - ・ 次期総合計画の下でも、復興について議論を交わせる当委員会のような場が必要。
 - ・ 復興プランについては、比較的短いスパンでPDCAを回せるように工夫して欲しい。
- 内容について
 - ・ 抽象的な「幸福」の意味するところを憲法上の原則等に戻って、しっかり詰めた上で次期総合計画の柱としていただきたい。
 - ・ 幸福感は人それぞれに違いがある。多様性、立場の違いに応じた施策を展開して欲しい。
 - ・ 人口減少が一番の問題。東京都と本県の沿岸部では起業の難易度も大きく違い、今後の仕事づくりをどうするかが課題となっている。
 - ・ 次期総合計画の策定に当たり、三陸全体をどうするかという大きな視点が欲しい。
 - ・ 開いていく方向（三陸道、宮古・室蘭間フェリー等）と閉じていく方向（県内自治体間の連携等）をどう地域にプラスに持っていくかが重要な柱として挙げられる。
 - ・ 広域的な連携の強化を図るに当たっては、県内自治体間の広域的な連携を推進する何らかの措置を講ずるべきである。
- その他
 - ・ 終わっていない復興事業も多く、被災地では不安な部分があると思う。次期総合計画までのつなぎをしっかりと行っていく必要がある。
 - ・ ハード事業の完了イコール復興の終わりでないことを強く認識していただきたい。
 - ・ 早く復興施策から一般施策に切り替え、一般施策の中で被災者支援等を行うべきである。
 - ・ 被災地は課題解決の先進地に化ける可能性がある。